

岩見沢市生活交通ビジョンのまとめ（平成27年4月策定）

資料4

【地域・交通の現状】

郊外部への都市の拡大	人口減少、高齢化の進行	都市機能の市街地への集積	市内の東西の移動は岩夕で乗継が必要	「循環バス」や「目的地までの直行便」の要望	郊外部のバス利用頻度の低下
北村・栗沢地区における非効率的なバス交通	利用者の少ないバス停の存在	現状バスサービスと市民の移動実態の乖離	高齢化の進行に伴う交通弱者の増加	バス交通に対する市負担額の増加	郊外部における交通空白地域の存在
終発時間の早いバス交通	現状バスサービスへの高い不満	「夜間バス運行」の要望	『まちなか』におけるわかりづらいバス運行経路	まちなか拠点の交流機能の不足	「ICカードの導入」の要望
自動車による環境負荷の増大	自動車依存型社会の定着				

【地域・交通の課題】

- コンパクトで移動しやすいまちづくりの推進
- 市民ニーズに即したバス交通のシームレス化
- 利用実態に即したバス交通体系の構築
- 交通弱者の増加を見据えた郊外部における持続可能な「生活の足」の確保
- 市民ニーズに即した生活交通サービスの改善
- バス利用機会・交流機会の増加に寄与する取り組みの実施
- 過度な自動車依存からの脱却

【公共交通の基本方針】

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 基本方針1 コンパクトな都市を形成する公共交通網の再構築 | 基本方針3 市民生活の質の向上に資するバスサービスの提供 |
| 基本方針2 地域特性を考慮した効率的な公共交通体系の構築 | 基本方針4 バス交通の利用促進策の展開 |

【公共交通の基本方針】

基本方針1 コンパクトな都市を形成する公共交通網の再構築

施策1 「であえーる」を活用したまちなか交流拠点の創出の検討

中心市街地における関連計画との連携を図り、「であえーる」を活用したバス待合機能、及び高齢者と若い世代など多世代がふれあえるまちなか交流拠点を創出し、公共交通と連携したまちづくりを検討する。

施策2 利用実態を考慮した効率的な既存公共交通網再構築の検討

既存公共交通網における現状の利用実態を踏まえ、既存バス路線における重複区間の統廃合や、バスサービス水準の変更を行う。また、市民ニーズを考慮し、バス利便性向上に資する商業・医療・行政施設を連絡する市街地循環バスの運行、JRとの接続性の改善などを行う。さらに、中長期的な路線再編に向けては、まちなか交流拠点として位置づける、「であえーる」へ接続する系統数増加の可能性や更なる路線の効率化など、国の補助制度の動向や将来的な道路計画を見据え、公共交通網の再構築を検討する。

その際、岩見沢市の資産である北海道教育大学岩見沢校と中心市街地のアクセス性、及び学生等におけるバス利便性向上などを考慮したルートを検討する。

基本方針2 地域特性を考慮した効率的で持続可能な公共交通体系の構築

施策3 交通空白地域における新たな公共交通の検討

岩見沢市における交通空白地域かつ、人口が低密度に居住している地域において、中心市街地へのアクセスの他、周辺拠点への接続等を踏まえた、新たな公共交通の導入を検討する。

施策4 現状のバス利用実態に即した郊外部における公共交通の検討

北村・栗沢地区の市営バスなど、バス利用実態を考慮し、非効率的な運行がみられる地域に対し、需要に応じた見直しや新たな公共交通を検討する。

基本方針3 市民生活の質の向上に資するバスサービスの提供

施策5 既存路線バスにおけるバスサービス改善の必要性検討

岩見沢市内の既存路線バスの終発時間は、同規模の他都市と比較しても早くなっている。そのことから、終発時間が帰宅時の交通手段の選択に影響を及ぼしている地域などに対し、運行時間帯の改善などの必要性について検討する。

また、まちなかにおいてバスを利用した移動状況はほぼ無く、新たに拠点として設定する「であえーる」との接続性の観点から、まちなかワンコインバスの導入の必要性について検討する。

基本方針4 バス交通の利用促進策の展開

施策6 市内路線を網羅したバスマップの作成・配布の検討

市民のみならず、来訪者にもわかりやすいバスマップや時刻表を作成し、公共交通に関する情報をバス利用者に提供することで、新規需要の掘起こしやバスに対する意識の変容を促す。

施策7 その他バス利用環境の向上に資する施策の検討

ICカードの導入やICTを活用したバスロケーションシステムの導入など、バス利用環境の向上に関する施策を検討する。

各施策の目標

指標	現況値	目標値（H32）
施策1 「であえーる」を活用したまちなか交流拠点の創出の検討 (実施主体：岩見沢市、民間事業者、市民)		
①まちなか交流拠点創出プロジェクト参加者数	9.2人/日（H27）	15人/日
②中心市街地のバス利用者数	3,912人/日（H26）	4,100人/日
施策2 利用実態を考慮した効率的な既存公共交通網再構築の検討 (実施主体：岩見沢市、交通事業者)		
①市内バス路線総乗車人数	1,151,570人/年（H26）	1,200,000人/年
施策3 交通空白地域における新たな公共交通の検討		
施策4 現状のバス利用実態に即した郊外部における公共交通の検討 (実施主体：岩見沢市、交通事業者)		
①乗合タクシー利用者数	1.68人/便（H27）	2人/便
施策5 既存路線バスにおけるバスサービス改善の必要性の検討 (実施主体：岩見沢市、交通事業者)		
①路線バス最終時間帯変更便の利用者数	7.3人/便（H27）	10.0人/便
②中心市街地間の移動におけるバス利用者数	103人/日（H26）	150人/日
施策6 市内路線を網羅したバスマップの作成・配布		
施策7 その他バス利用環境の向上に資する施策の検討 (実施主体：岩見沢市、交通事業者)		
①バスサービスに対する満足度	28.8%（H26）	50%超

施策の進行管理

本計画で掲げた基本方針や施策を計画的に実施するとともに、社会情勢等の変化に合わせ柔軟に施策を展開するために、PDCAサイクルによる計画の適切な見直しと改善を行う。

また、本計画の進行管理は、岩見沢市地域公共交通活性化協議会において、行うものとする。

